

副市長	俵 輝孝君
副市長	一宮 努君
教育長職務代理者	一宮惠津子君
総務部長	庄司 克啓君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	犬束 幸吉君
しまづくり推進部長	藤田 浩徳君
観光推進部長	平間 博文君
市民生活部長	阿比留忠明君
未来環境部長	三原 立也君
福祉部長	田中 光幸君
保健部長	阿比留正臣君
農林水産部長	平川 純也君
建設部長	原田 武茂君
水道局長	桐谷 和孝君
教育部長	扇 博祝君
中対馬振興部長	日高 勝也君
上対馬振興部長	原田 勝彦君
消防長	井 浩君
会計管理者	勝見 一成君
監査委員事務局長	神宮 秀幸君
農業委員会事務局長	栗屋 孝弘君

午前10時00分開議

○議長（春田 新一君） おはようございます。

報告します。波田政和君、島居真吾君から欠席の届出があつております。

ただいまから議事日程第4号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（春田 新一君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は4人を予定しております。

それでは、届け出順に発言を許します。4番、東圭一君。

○議員（4番 東 圭一君） 皆様、おはようございます。4番議員、東圭一でございます。

一般質問に先立ちまして、一言御挨拶とお礼を申し上げます。

このたびの対馬市議会議員一般選挙におきまして、大変多くの市民の皆様から御信任を賜り、この議会の場に送っていただきました。改めてその責任の重さを実感し、非常に身が引き締まる思いでございます。

期間中は、通行の妨げや演説など、連日連夜にかけて大変お騒がせしましたこと、深くお詫び申し上げますとともに、皆様の御理解と御協力に心より感謝申し上げ、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。まことにありがとうございました。

また、市役所職員の皆様におかれましても、準備から開票業務にいたるまで、大変お世話になり心より感謝申し上げます。

選挙期間中、対馬全島津々浦々を自らの足で駆け巡り、市民の方々と触れ合い、耳を傾け、話もさせていただきました。その中で聞こえてくるのは、苦情だけではなく悲鳴に近いたくさんの声もありました。中にはすぐに対応できそうなものもあれば、もちろん1年や2年では解決が難しいものもあります。現在も多くの御要望をいただいております、全てに優先順位をつけることはできませんが、一つ一つにしっかりと向き合い、手を差し伸べていかなければなりません。重要課題の解決にも取り組みつつ、今後の議会においても順次、提言を行ってまいります。

市長をはじめ市役所の方々とも手を携え、できない理由を探すのではなく、どうやったらできるのか、建設的な議論をし、明るい対馬の未来を築き上げていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

まず1点目、インバウンドからの入島税の導入、対馬市では現在、人口減少が深刻な課題となっております。一方で、外国人観光客、いわゆるインバウンドの対馬への来島者数は依然として高い水準を維持しています。しかしながら、市の税収は今後ますます減少していくことが見込まれ、十分な観光インフラが整備されていない現状では、心から観光客を歓迎できる体制とは言えません。

また、対馬の主な観光資源は、長い歴史と文化を感じさせる場所や海や山の自然景観を楽しむ絶景スポットが中心です。しかし、これらは経年劣化や過酷な自然環境の影響をとっても受けやすく、継続的な維持管理が欠かせません。こうした観光地の価値を守りながら、持続的な観光振興を図るのには安定した財源の確保が必要不可欠です。

近年、国内の有名観光地においても、これは、壱岐市もこの前、住民説明会にも上がったそうです。入島税や観光税の導入、検討が進められていることを踏まえ、対馬においても早急に先進事例の調査、分析を行い、インバウンドからの入島税制度の導入に向けた具体的な検討を開始すべき時期に来ていると考えます。

続いて2点目、子育て支援、遠征費について、文化、スポーツで頑張る子供たちの遠征費の支援の助成の増額、それと、適用範囲拡大を検討できないか。適用範囲を拡大し、県大会以外にも遠征やイベントの参加を支援してあげることにより、対馬島内にいながら能力の向上を図ることができ、保護者の経済的負担軽減にもつながります。離島であることによる不利な点を少しでも解消していただきたいと考えております。

3つ目、対馬市の魅力発信強化について、情報発信、SNSの強化は、これから対馬が取り組む移住者施策、国内観光客の誘致施策にとって非常に重要なポイントになります。対馬にとって一丁目一番地の施策といっても過言ではありません。全国の離島への移住者や観光客が情報を取るのには、もはやテレビや雑誌ではなく、スマホでSNS、これで情報を取る時代です。そのスマホに対馬が表示されるか、これが非常に重要です。

最近、対馬市の公式Instagramなどの発信においては、非常に丁寧かつ積極的な取組が見られ、大変好感を持っています。素晴らしいと思います。情報発信に力を入れておられることは、対馬市民や対馬出身者、また対馬ファンの一部の方々にとっては確実に届いていると感じます。

しかし一方で、今一度、立ち止まって考えるべきは、その情報が本当に必要な層に届いているのかという点です。例えば、どこかの離島に移住したいと考えている若者のスマートフォンに対馬の魅力が届いているか。また、離島旅行を検討している観光客が他地域と比較検討する中で、対馬の存在に気付いているか、またどこでもいいから島に行ってみたいと思っている潜在的な旅行者の関心リストに対馬が入っているのか。こうした問いに対する検証と分析に基づいた戦略的な情報発信がこれからのSNS、インターネット活用には欠かせません。

今後、全国に点在する数多くの離島の中で、対馬がしっかりと選ばれる存在となるためには、受け手の目線に立ったマーケティングとSNSを通じた戦略的なブランド発信がますます重要になると考えます。これからのインターネット戦略やSNS戦略について伺いたいと思います。

以上、3点について、対決より解決で、市民の皆様の喜ぶ顔を思い浮かべながらの御答弁を期待しておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。東議員の質問にお答えいたします。

初めに、インバウンドからの入島税についてでございますが、入島税は、地方税法上、法定外税であり、総務大臣との協議、及び同意に基づき、地方公共団体が独自に導入する税で、広島県廿日市の宮島訪問税、沖縄県内の一部の自治体で環境協力税として導入されております。観光地等の整備やインバウンド対策を実施していくうえで、財源確保は課題ではありますが、まず入島税を導入することが手段としてふさわしいものであるかという議論をはじめ、税の妥当性、並びに税の使途の明確化や公平、中立、簡素という税の三原則に反していないかなど、慎重な検討が必

要なことに加え、納税義務者をインバウンドに限定することへの理解など、様々なハードルが想定されます。

また、長崎県では、現在、新たな観光振興財源として宿泊税の導入が議論、検討されている状況です。今後、県が宿泊税を導入し、本市が入島税を導入した場合は、観光客等に対して宿泊税と入島税を二重に課税することとなり、県の動向を踏まえた中で、入島税の導入は慎重な判断が必要であり、早急な検討は現在、考えておりません。

しかしながら、インバウンド需要に対して、市の収入を確保していくことは、議員御質問のとおりで重要なことでございます。対馬と釜山港を結ぶ国際航路の再開以降、本市を訪れる韓国人観光客は回復基調にあり、令和6年には19万人に達しております。

昨年7月に国際ターミナル等使用料を12歳以上の旅客者で200円から500円に引き上げており、令和6年度の国際ターミナル等使用料収入は、約8,300万円で行いました。令和7年度国際ターミナル利用者数を30万人と想定いたしますと、ターミナル等使用料試算額は約1億4,700万円となります。この国際ターミナル等使用料はインバウンドに起因する本市の貴重な財源であり、現在は国際ターミナルの管理運営費等に活用しております。

今後は、観光インフラの整備費など、活用の幅を広げ、オーバーツーリズム対策を推進し、市民とインバウンド観光客との調和をさらに図ってまいりますので、御理解願います。

次に、子育て支援としての遠征費についてでございますが、現状といたしましては、スポーツ活動振興費補助金として本市では平成25年度に子どもの夢づくりを育成することを趣旨として、子ども夢づくり基金を設置し、その基金を活用し、社会教育振興費補助金及びスポーツ活動振興費補助金として各スポーツ大会、文化大会等への参加経費に対する支援を行っております。

交付基準につきましては、基本的には市内の予選会を経て県大会に出場、あるいは県大会を経て九州、全国大会に出場する旅費の補助として交付しております。また、九州北部3県内で開催されます郡市規模以上のオープン大会等に自主的に参加する団体、及び個人に対しても年に1回を限度として交付しております。

さらに、県またはブロックの強化指定選手等にも指定選抜された選手の島外で行われる強化練習会等の参加につきましても、年6回を限度として交付をしております。補助率につきましては、先ほど説明いたしました費用を算定し、その費用のうち、県大会が3分の2以内、九州全国大会が5分の4以内、オープン大会が3分の1以内、県及びブロック選抜の練習会等が2分の1以内としております。補助対象の人数につきましては、選手は、大会要項等に規定されている人数以内としております。ただし、オープン大会は競技種目のレギュラー人数としております。また、引率者につきましては、選手10人までは1人、10人を超える場合は2人までとしております。

また、高校生につきましては、対馬市高等学校文化スポーツ活動支援事業補助金として、部活

動の遠征や合宿に要する経費の一部を助成しております。対馬の将来を担う子どもへの支援は、最も重要な施策であることは認識しております。しかしながら、その支援策の一つとして取り組んでおりますスポーツ活動や文化活動に対する支援につきましては、現状においても長崎県下の他市町よりも手厚い補助を行っている状況でございます。現時点においては、限られた財源の中での運用をしておりますので、現状での対応をまいりたいと考えております。

次に、対馬市の魅力発信強化についてでございます。まず、島外の方に対する情報発信の本市における現状といたしまして、移住希望者の皆様向けには対馬市公式ウェブサイト内の移住定住情報ページを充実させ、住環境、子育て支援、仕事情報などを提供いたしております。また、U I ターン経験者の声を積極的に発信することで、移住への不安を軽減し、具体的な生活イメージを持っていただくよう努めております。

観光客の皆様向けには、対馬観光物産協会の公式サイトから対馬の豊かな自然、歴史、文化遺産、そして独自の食文化、宿泊施設といった多様な情報をお届けしております。本年4月からは対馬の魅力をより深く掘り下げ、観光客の皆様が対馬を感じて考える、対馬感考サイトを開設いたしました。また、同時に、観光地の情報と目的地までのナビゲーションが可能となるデジタルマップも新設いたしております。この観光サイトとデジタルマップは連携しており、利用者の皆様におかれましては、効率的に情報を収集することができ、対馬での滞在を最大限に楽しんでいただくことができます。

その他、LINE、フェイスブック、インスタグラムといったSNSを積極的に活用し、それぞれ異なる特性を生かした情報発信を島外の方々へ行っております。特にインスタグラムでは、視覚に訴える写真や動画を通じて対馬の雄大な自然や美しい景色、魅力的な食、地域の紹介など、今年度は既に281件発信しており、観光需要の掘り起こしの一助となっております。

島外の皆様へ効率的かつ効果的に対馬の魅力を発信することは、議員の提言どおり、本市の活性化において不可欠でございます。そこで、今後はSEO、要するに検索エンジンの最適化の強化や御利用者の視点に立った情報提供をさらに重視し、島外の皆様から対馬に行きたい、対馬に住みたいと、感じていただけますよう発信に努めてまいります。

なお、大阪・関西万博の対馬ウィークでは、対馬が直面する海洋環境問題と取組をユーチューブで発信を行い、大変御好評をいただき、大きな手応えを感じております。今後もこのような情報発信を行い、対馬の魅力をさらに高めてまいります。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 4番、東圭一君。

○議員（4番 東 圭一君） ありがとうございます。

まずインバウンド税についてですが、長崎県が宿泊税の導入を検討しているというのを、それ

に重なるんじゃないかというのは、それは長崎県が進めていることであって、対馬市の問題ではないんですね。何でインバウンドに限定したかという、やっぱり日本人観光客や対馬に帰省する地元民にとっても、やっぱり宿泊は必要になってきます。そこに対して、対馬のホテルの金額に対すれば、多分長崎市やっているのでは100円、ちょっと広い部屋になると、高い部屋になると200円ぐらいが相場かなと思います。ちょっとこれでは、日本人観光客、地元民にもちょっと負担がかかるんじゃないかということですね。

市長おっしゃるように、インバウンドの入島が以前は40万人から今年20万人前後だろうという予想もぴったり当たっていました。また、次に対してもこれ30万人いくということはもう調べられると思っているので、そこはまた当たるのかなと思っています。

ここで、それで約1億5,000万円になりますということで、それについて、これで今現状8,300万円でターミナルの運営とかに使ってあると聞いたんですけど、これ明白な振り分けというのができていますか。お願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） これが今やっているのが、厳原国際ターミナルと比田勝の国際ターミナルでございますけれども、厳原港の国際ターミナルが2,046万1,000円、比田勝港の国際ターミナルが2,112万3,000円と、この維持管理費の計で約4,200万円程度使用をしている状況であります。

○議長（春田 新一君） 4番、東圭一君。

○議員（4番 東 圭一君） あと4,100万円についてお願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） あとは、この国際ターミナルの使用料の中で、人件費等が約4,900万円程度、そして物件費が3,000万円程度、補助費等が280万円程度ありますので、この国際ターミナル使用料のほうに、今現在、入れている状況であります。

今後はこれがまた増えてきますと、それ以外の分については、観光施設等の充実に向けた経費として活用してまいりたいというふうに考えております。

○議長（春田 新一君） 4番、東圭一君。

○議員（4番 東 圭一君） ありがとうございます。

それで言ったら、今、1億2,000万円かかっていますよね。これ30万人来たとして、1億5,000万円から、そこに来れば足りると思うんですけど、またここにちょっといろいろな経費がかかってくると思うんですよ。

既に今の時点でおっしゃっている8,300万円からもこれ使い過ぎて足りないんですよ、実際。これをどこから財源を持ってくるのか、結局これに対して赤字を受けているじゃないです

か、これ。市の財源をこれからどう増やして、まずこのインバウンド、今の20万人でも市民の声をちょっとお聞かせしますんで、ちょっと聞いていただきたいと思います。

まず、ショッピングセンターティアラや島内施設においても、韓国人観光客が多数を占めており、地域住民の生活や観光資源の在り方にも影響が見られます。例えば、モスバーガーに入りたくても入れない、スーパーの品切れ、バスに乗りたくても乗れない、そして高齢者の方、温泉施設にも韓国人が多くて入れないよと。これも立派なオーバーツーリズムなんですね。ランチ難民による表のベンチに座っての飲食などによるごみ問題、そして喫煙など、この件については、別に外国人観光客に限ることではないんですが、景観の問題により、例えばイトインスペース、上対馬町では、バリュータケスエさんは時間になると敷地内に椅子やテーブルをいっぱい用意して、インバウンドのための対処などをしっかりとやっていますね。そんなスペースの確保や、今度、喫煙所なんですけど、道沿いに、ティアラ、道を通ってたらあそこが一番目に入るところですよね。そこにやっぱり喫煙所を置いてあって、そこでの喫煙、そんな中、やっぱり目の前には高校生が待っているバス停があるんですよ。学生がこちらにちょっと苦情じゃないけど、どうかならんかということで受けました、これは。それがやっぱりバスを待っている学生までたばこの匂いが届いていると、そんなことにならないように、今どきは都会的な喫煙スペースなどをつくるなどして、今後は観光振興だけではなく、地域住民の生活との共生を重視した政策が求められているんです。

観光客を減らせとは言っていないです。今の対馬にはもう韓国人観光客、インバウンドはもう絶対に不可欠ですから、もう北部地区など、特にですね。

しかしながら、先ほども言ったように、地域住民の生活にどうしてもまた支障を与えるんです。市長が言う30万人はまた、これから増えるとしたら、もっとですね。そしたら、またクレームなど必ず出ます。届いていませんか。皆さん、ないですか。

それに充てて、インバウンドからの入島税を徴収して、観光推進に生かし、その観光の恩恵を市民生活にいかにか還元できるかが今後の観光政策の成否を左右する重要なポイントだと思いますし、地域住民の方々の理解を得る大きなきっかけになるのではないのでしょうか。これが市民の皆さんの声です。それについてお願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに若干オーバーツーリズムになりつつあるのかなといったことで、私のところに聞こえてきますのが、やはり、スーパー等がかなり混雑をしている状況であるし、レジ等にかかなり並んであるということは、耳に入っては来ておりますけれども、ただ、これについては、やはり、それだけお客様が増えるということで、一方では、歓迎すべきことなのかなといった思いも持っております。

そういうことで、今後、いろいろと対策を練っていかなくてはならないことも多々あるわけですが、今、議員おっしゃられたように、ちょっと私も気が付きませんでした、特に、ティアラの前の喫煙所につきましては、本当に目の前に高校生等が通学でいるなど、あそこでタバコを吸っているといったことは、何らかの対策をちょっと練らなくちゃいけないなという思いを持っております。このことにつきましては、またまちづくり厳原の皆様とともに話を進めていきたいと思っております。

ただ、そういう中で、今議員がおっしゃっておりますこのインバウンド、例えば、対馬の場合では、韓国からのお客さんに限って入島税を取れということは、これは、日本が45か国、もちろん韓国や米国が入っておりますけれども、ここと結んでおります租税条約の関係で、不当な差別的課税を回避していかなくてはならないといったことが書いてあるんですね。そういうことで、我々もこれちょっといろいろ気になって、あちらこちらで調べてはみているんですけども、国のほうにちょっと問い合わせをしたら、やはり、このインバウンドに限定した税の賦課は、非常にデリケートな問題といったことで、例えば、対馬の場合、インバウンドに限定するのは難しいのではないかとといったような御指導もいただいているところでございます。

そういうこともございまして、対馬市としては、この国際ターミナルの使用料を200円から500円に引き上げまして、これをいかにして観光関係の充実をしていくかということに使用するように考えているところでございます。

以上です。

○議長（春田 新一君） 4番、東圭一君。

○議員（4番 東 圭一君） ありがとうございます。

まだできない理由ばかりでちょっと時間ないんで、ちょっと言いたいことだけ言わせて、この件については終わらせてもらいます。

まず、やってもいないのに、まずできていない、できないというのが、前例はともかく、今から対馬市独自でやっていけばいいかなと思います。そこもちょっと考えておいてください。

何に問題があるかちょっとその辺はひっかかるんですけど、何に対して気を使っているのかというのが、まず、実は前もって観光事業してある飲食店の店主や宿泊施設、観光ガイドなど、あと韓国の友達、この辺にこの件についてお話したところ、怒られるかなと思ったんですよね。そしたら、いやぜひ取るべきだと、ターミナル使用料500円でも安いぐらいだと。一方では、ぜひとって、それで観光振興をしていただいて、もっと対馬をよくしてくれれば、もっと呼びやすくなるからぜひやってくれということなんですよ。ここに対してまたクリアできていると思います。市長も行かれて、生の声を聞かれたら分かると思うんですが。あと入島税について厳しいのであれば、今、ターミナル使用料200円から500円に上げたのも、またここでクリアしま

すよね。そこに上乘せしていくような考えとかはないですか。またそれも一つお願いしておきます。

やっぱりこの使用料、ターミナル使用料での市に入ったお金をどういうふうな使い道をして、明確にまたこれから出して報告会でもいいし、広報のほうでもいいし、これでいかに住民に韓国、インバウンドの方々が来られたときに、恩恵を受けているか、その辺を出していただいたら、地元住民の方の温度もちょっと下がるんじゃないかなと思っています。

これから市長なりに市が韓国の何か大きなプロジェクトがもしあったときに、これから地元住民にもあったいろいろな説得というか、今ああいう中学校でもめている問題とか、ああいうのが結局、説得していくことが必要になってくると思うんですね。その辺の言うたら種まきみたいになると思うんです。言い方は悪いですけどね。だから、その辺も含めて、まず地元住民の生の声、これをしっかりと受け止めて、入島税の問題はあるかもしれませんが、市の財源を入れることに努めていってもらいたいと思います。

まずこの1点目を、これで終わります。

2点目の、遠征費についてですね。まず、これも考えとして、オープン大会への参加の支援はあると聞いております。似たようなものですけど、対馬のような離島では、子供たちが都会に出るだけでも大きなプレッシャーを感じるんです。そのような状況の中、いきなり県大会や全国大会といった大舞台に望んだら、多くの観客の前で本来の力を発揮するのは非常に困難ですね。大人でも緊張しますから、自分もこの場に上がっても緊張します、1回目ですから。

まず、見知らぬ土地に行って、見知らぬ相手、そして強豪校との練習試合を経験することは、子供たちにとって心と体の準備運動となり、本番に向けた貴重なステップです。こうした機会をあらかじめ設けてやることが、子供たちの自信と成長に直結すると確信しております。

また近年、多くの経験を子供に積みたいという理由から、親子で島外へ転居するケースも散見されています。これは、対馬では満足な経験をさせることができないとの保護者の判断によるものです。子どもたちへの支援はこうした流出を防ぐ一助となると考えておりますが、市長、どう思いますか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに対馬の子供たちがいろいろな経験を積む上では、まず島外に行くときの交通費等については、大きなネックとなるということは、認識しているところでございます。私自身も、対馬の子どもは島の宝といったようなことをあちらこちらで言ってはおりますけども、このことについては、できる限りの支援をしてまいりたいといったようなことで、この子どもたちのスポーツ振興基金とか文化の振興基金につきましては、これまでもいろいろと改善を重ねながら、今現在、このような補助システムを確立しているところでございます。

そういうことで御理解を願えればというふうに思います。

○議長（春田 新一君） 4番、東圭一君。

○議員（4番 東 圭一君） 対馬市が出している、これは、本当補助は手厚いです、はっきり言って。十分と思います。自分も大人としてもらっている分があるんですね。大人として一般と壮年と、指導させていただいて、もらっている金額に対しても子供に対しては手厚いです。

ただ、今、物価高騰によるプレイヤーが飲むジュース1本でも、当時、この補助金交付基準はいつ最後つくられたんですかね。この辺からしたら、もうジュース1本でもいくらか上がっていると思うんですよね。その辺に対しても、いろいろここの基礎上げをちょっとやってもらって、どうにか1,000円でも2,000円でも多く増やしていただけたらと思います。

これ遠征費に限らなくて、今現在、ちょっと問題点だけ少し言わせてもらいます。オープン大会の参加、これスタメンだけに限定されているけど、やっぱり練習試合等とか、そういう大会においては、控え選手の育成、育成もやっぱり大事なんですよ。やっぱりそこしか、スタメンだけしかお金がないなら、どうしてもスタメンだけしか行かなかったりとかになってしまうんですよ。連れていけないと。いったら控え選手でいえば、やっぱり低学年とかでどうしても親御さんがついていかなければならない。そこにやっぱりお金が出ないということは、やっぱりまた負担になっているんですね。その辺に関して、またいろんな問題があるんで、ここら辺をまた今すぐじゃなくていいんで、改正していただいて、やっぱり保護者の負担とかの軽減にもつなげていってもらえたらと思います。

そして、1泊2日上限に県大会ぐらいたなっているんで、その辺もやっぱり勝ち残って成績を残せばベスト4などですね。その辺に対しては、また2泊3日を出してやるとか、その辺にしてやらないと。例えば、勝ち残っても帰れない、いられないから帰りますというところも出てきている現状ですね。大人もそうです。はっきり言うと。ホテル代ないから帰りますよって。そういう現状もあります。

だから、その辺もこれから寄り添って、いろんな考えを、方針を、また変えていけるところは変えていって、今年も今7月になったんで、これからまた、今現状いる学生はどんどんまた県大会とかにも行きます。これ急いでやっていかないと、今年の、来年からといったらまた今年の、それじゃかわいそうになってくるんで、これはスピード感を持ってぜひやっていただきたいと思います。

そして、3点目についてですが、これは、もう市長もおっしゃるとおり、観光交流商工課さんでもデジタルマップ、これ非常に好評です。観光客からも、やはり。こういったことについて、この3点目については、もう討論ではありません。本当、対馬市がやっていることは、非常に何か月前に比べてももういいです。しかし、一つだけ言わせてもらったら、ちょっとこれは読みま

す。

SNSとはよくできており、例えば、対馬市民向けの投稿が多いと、コンピュータが自動的に判別し、対馬市民や対馬関係者のスマホにばかり、その投稿が表示される仕組みになっております。

まだまだこれは検証が必要ですが、恐らく対馬市、SNSは全国の離島好きのスマホには表示されていない可能性が高いのです。これ自分、実際の意見を述べさせてもらいますね。実際に、以前、海士町に視察に行かせてもらったときに、離島留学で来ている生徒さんとの交流の場で、なぜ海士町なのか、対馬も離島なんだけど、選択肢になかったのかと尋ねると、対馬ってどこでつかって、こんな残念な悲しい答えが返ってきたんですね。

島根県ですから、東北や関東、関西、そこら辺が近いからそこから来ているからと思っていたんですね。そしたら、聞いてみたところ、九州からも数名いました。もう県は飛ばします。

その子たちのスマホからですと、既に検索をかけているから、海士町などが表示されやすいだろうから、私の携帯を渡して、ちょっと離島に来る前に、来る前の検索の仕方をこの携帯でやってくれと。検索してもらったら、残念なことに、上にずらせど、ずらせど、対馬の「つ」の字も出てこなかったんです。これ2月の話ですね。今、現状は、またそれから何でしたっけ、島っ子留学とかその辺、またいろいろしていると思うんですね。

その辺で、また対馬市が取るべきSNS発信強化として、先ほど、市長もおっしゃられましたけど、目的別にアカウントをつくり発信、管理していくことが急務と思います。移住者アカウントが地域づくり課、観光客アカウントは観光交流商工課、対馬市向けアカウントは今現在、総務課さん。もしくはSNS担当職員をつくり、別にアカウントを運用させる必要があれば、もっとよくなるんじゃないかと思います。

あと一つ、ちょっとこれは学校のほうかもしれないんですけど、国際交流科の宣伝というか、パンフレットの配付とかは、各、例えば入学するため、学校に、これは学校のほうがやっていますか。各学校が。

その辺についてもちょっと声があって、今現在、国際交流科に通っている生徒から、何で今ちょっと減ったかっていうと、その辺はところどころには届いているけれども、九州全土、やっぱり届けられるところにはそういうことを配付して、対馬の国際交流科、せっかくこういう立派なものがあるんで、ここにも、この場でなければ、そこに、市のほうから言ってもらって、もうちょっとやるべきではないかと。実際の声が福岡県に住まわれる中学生が、こんなのあるなら行きたかったよということを受けていると言っています、友達が今さら遅いということで話があったということもききましたんで、その辺も含めて市のほうも力を入れてもらえばいいと思います。

昨日、安田議員からもあったように、豊玉高校の件もあります。その辺については、やっぱり

力を入れてもらっていつてもらいたいと思います。

あと、ちょっと見てもらいたいものがあって、これですね、私を含め、対馬を愛する有志メンバーで立ち上げた会で、このようなものをちょっと作成したんですよ。これです。細かく、これはもうただ見てもらうだけなんです、これ対馬が抱える様々な問題に対し、仲間たちと多角的に意見を出し合い、それぞれの要素がどのようにプラスに働き、あるいはマイナスに転じ得るかという因果関係を解き明かして作成しました。

まだこれ途中ですが、このループ図に対馬が抱える具体的な問題を当てはめることで、様々な解決の糸口を解き明かしていけるんじゃないかなと思っております。これはもう市への協力の姿勢なんで、そして、やっぱり情報発信として、対馬でも仕事だけではなく、暮らしの全体のイメージが見える情報発信も強化していただいて、移住のハードルを下げ、来やすいまちですよということを、またいろいろ発信していつてほしいと思います。

また、これ手で申しわけないんですけど、その辺に関しても、初めての離島、そういうコンセプトで、日本の神秘的な聖地として認められ、一生に一度は訪れたい場所になる、またこういったいろんな方向性から情報発信をして、対馬の魅力をどんどん伝えたいと思っております。これに関しては、やはり観光交流商工課さんや総務課さんでも、我々も協力していきたいと思うんで、どんどんこれから対馬の発展のために、お互い手を取り合って頑張っていきましょう。よろしくをお願いします。

我々だけじゃなくて、やっぱり市民の皆さんにも少しだけ先の未来を考えてもらいたいんですけど、少しだけ先の未来を考えてください。

まず、あなたは2040年の毎日を過ごしています。2040年の対馬はどうなっていて、あなたは何をしていますでしょうか。今現在のあなたに話してみてください。

これで、私の本日の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、東圭一君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開を11時5分からとします。

午前10時50分休憩

午前11時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。6番、佐伯達也君。

○議員（6番 佐伯 達也君） 改めましておはようございます。会派對馬の風、6番議員、佐伯でございます。ぜひよろしくお願いいたします。さきの5月18日の対馬市議会議員一般選挙に